

特集 **軍事力に頼らない!**

2~5面 **U-25 ピースメーカーの平和のタネになる話**

6面 **なぜ武力で平和はつukれないのか**

7面 **「イスラエル軍元兵士が語る非戦論」を読んで**

非暴力で 平和を つくろう!

The Young Women's
Christian Association

YWCA

8

AUGUST
2024

No.781

www.ywca.or.jp

〈第33総会期主題聖句〉
平和を実現する人々は幸いである
—マタイによる福音書5章9節—

〈ビジョン〉
女性がリーダーシップを発揮し、
人権・平和・環境を大切にす社会

〈ミッション〉
若い女性をエンパワーし、共に社会変革を進めます。

〈バリュー〉
キリスト教基盤 平和・環境 人権 セーフスペース

対話を重ねて
一緒に考えたい

高橋悠太
(かたわら代表理事)

「知る」ことから
始めよう!

藤田裕佳
(一橋大学大学院生)

いまの平和は
ホントに平和?

仲本和
(平和学習講師)

平和を維持するためには軍事力が必要だ、
と思いますか?

武器も戦力も放棄して平和をつくろう、
なんて「お花畑」だと思いますか?

「イエス」と思ったのなら、大きな誤解。

本当の平和は、平和的につくられるもの。
軍事力、武力、あらゆる暴力を使わない平和づくりを
実践・研究する人々に、
その手がかりを求めてみました。

U25ピースメーカーに
ヒントをもらう

平和をつくる タネ になる話

長崎、広島、沖縄、それぞれの立場で、
非暴力による平和づくりを実践する3人の若者たちにクローズアップ。
湧き上がる情熱、冷静な視点、しなやかな感性をもって
平和を目指す若者たちの想い、経験、取り組みには平和をつくるためのヒント、
そして希望がある。



平和活動に「賞味期限」なんて無い!

一橋大学国際・公共政策大学院
藤田裕佳

日本は平和って
ホントだろうか?

私が平和について関心を持ったのは16歳のとき。当時私はドイツに留学中でした。そこでニュースでしか知らなかったシリア難民の家族と直接向き合ったことで「日本がいかに平和なのか」を実感し、帰国後、さまざまな形の「平和」について学び始めました。「戦争のない平和」をテーマに第二次世界大戦、原爆について学んだとき、そこで初めて核兵器が現在も存在していること、日本は核保有国と隣り合っていること、そして第三の戦争被爆地が生まれるかもしれないと思い知りました。「ああ、そうか、日本も決して平和なのではなく、平和ではない状況をただ『知らない』だけだったんだ」と痛感し、雷に打たれたような恐怖を感じたのを今も覚えています。

核兵器によって突然日常を奪われる

ナガサキから
世界へ広がる

かもしれない!にもかかわらず人々が知らないことに対する危機感と恐怖。そこから私が感じた「誰もが、いつでも、一瞬で被爆者になる可能性があること」を、自分自身の言葉で発信したい。そのために核兵器廃絶を訴える「高校生平和大使」として活動し、さらに被爆地で学びたいと思い、長崎大学に進学しました。

大学では核兵器を巡る国際政治について学びを深めました。被爆地ナガサキは、平和と常に「共存」する街でした。ニュース、新聞、被爆遺構、そして人を通じて、日々平和への想いを再構築することができました。ただ大学時代の3年間は、コロナ禍でほとんど対面での学びや平和活動ができませんでした。でも、だからといって



長崎の中学校での出前授業。「原爆投下は過去・地域の話で完結せず、現在につながる問題。未来を変えられるのは自分たちだ」というメッセージを込めました」と藤田さん

「何もしない理由」にはならない。そんな思いから、ナガサキの声を世界に発信する「ナガサキ・ユース代表団」のメンバーとして活動を開始しました。コロナ禍のため、代表団の恒例プログラムである核兵器廃絶のための国際会議（国連本部）には参加はできませんでしたが、オンライン会議サービスを最大限活用し、世界中とつながって被爆者の思いと長崎の願いを発信することができたと思っています。

「核兵器は必要」という声に
廃絶へのヒントがある

「核兵器は廃絶されるべきもの」であることはこんなにも明白なのに、なぜ核兵器はなくならないのでしょうか？ それは、「核兵器は必要だ」と思っている人たちの意見が世界に通用しているからではないでしょうか？

長崎での経験を通して、「核は抑止になるから必要だ」と考えている人たちの声にも耳を傾けることが必要ではないかと思い知りました。本気で核廃絶を願うからこそ、あえて、平和のために核兵器が必要だと思っている人たちの意見を知り、理解し、彼らの主張に「風穴」を見つめる。そうすることで、核兵器廃絶へのヒントが得られると思います、長崎を出て東京で学ぶ決断をしました。現在は、一橋大学で核抑止論とその政策について学んでいます。そして、被爆地の思いを

東京に、そして世界に「輸出する」ために、国際NGO「リバーズ・ザ・トレンドジャパン」の代表として活動しています。

平和をつくるには
まず「知る」こと

平和をつくる方法を考えるとき、最も大切なのは「知ること」だと思います。長崎から東京に出て、核兵器廃絶に消極的・否定的な声にぶつかることが多々あります。だけど知ってほしい。きのこ雲の下には今の私たちと一切変わらない、幸せな日常があったこと。私の使命は、いつ使用されるかわからない核兵器の恐ろしさと幸せな日常を奪われる可能性をたくさんの方々を知ってもらうことだと思っています。



profile

ふじた・ゆうか

1999年、佐賀県生まれ。長崎大学多文化社会学部多文化社会学科卒業。一橋大学国際・公共政策大学院グローバル・ガバナンスプログラムにて、国際政治学を専攻中。高校時代に「高校生平和大使」、大学時代に「ナガサキ・ユース代表団」で活動。現在、国際NGO「Reverse The Trend」日本支部のユースコーディネーターとして活動。

藤田裕佳さん ▶



@yuka_peace



「ナガサキ・ユース代表団」9期生の仲間たち。「現在もそれぞれの形で平和を希求していて、自分の活動の励みになっています」

「無知の脱出」これはすべての人に共通すべき、人間社会の美しい営みです。だからこそ、私は平和について知ることを一生続けていく。平和活動に「賞味期限」はないのです。

私たちの社会は

私たちの手でつくっていく

ほぼ二人に一人が
「核兵器は防衛の役に立つ」

「軍事力に頼らない平和の作り方」というプログラムを作り、昨夏、約100人の高校生と対話を行いました。授業前のアンケートでは、「核兵器は防衛の役に立っている」と答えた生徒が53・3%！「日本も核を持つべき」と18・7%が回答しました。

授業で、1人の生徒が「核兵器がなければ、ちょっとしたことでも戦争が起これてしまうのではないですか」と尋ねました。私は「じゃあ戦争にならないか？ イラク戦争の発端は、大量破壊兵器の疑惑。核兵器が戦争のリスクを下げた例があるなら、考えてみよう」と投げかけました。議論の根拠として、アメリカと中国が衝突すれば、日本のような同盟国に真っ先に小型核を使う可能性があることや、核兵器24発が使

かたわら代表理事
高橋悠太

用されたら数カ月で260万人が亡くなる。との長崎大学の研究者らによる試算を提示しました。

「核廃絶が正しい」という意見を押し付けるのではなく、対話を重ねて一緒に考え方を見つけたいのです。

核兵器廃絶への道は
対話を重ねることから

私は広島に生まれ、小学校でいじめを経験しました。逃げるように受験した私立中学のクラブ活動で、私の人生に大きな影響を与えた被爆者の坪井直さんと出会います。

「腹の底には憎しみがあるが、感情を投げつけるだけじゃ核廃絶は進まない」と語る、対話を重ねる人でした。原爆投下は、天災のように「死が降ってきた」と比喩されることがあります。しかし投下は人間が決断し、その一端には戦争に突き進んだ日本の政治の責

任があります。即発射できる現役核弾頭は2018年以降、332発(3・6%)^{*}増えました。私たちは皆、核時代の当事者です。

授業の後、悶々と考えていた生徒が、「核で日本の平和が守られているって思っていたけど、そうではないかも」「仕方ない」と思っていたけど、実際に行動する人の話で考えが変わった」と話しかけてくれました。

平和をつくれるのは
私たち一人ひとり

大学卒業後の進路選択を迫られたとき、被爆者の思いを受け取った同年代が経済的理由などで活動から離れる状況に危機感を抱き、「平和をつくる」を仕事にしようと決めました。法人を

立ち上げ、「かたわら」と名付けました。核兵器をなくそうとする人の「傍ら」にいたいという思いを込めています。メンバー3人で、学校での講演、議員や政府への政策提言などを行っています。今年3月には、東京YWCAと「戦争体験の継承を考える」シンポジウムを開催しました。

平和の対義語は「戦争」ではありません。対極にあるのは「誰かが生きづらさを抱える社会」です。しわ寄せは、女性的マイノリティ、子ども、障がい者、非正規労働者など政策決定に直接関与しづらい人々に集まります。解決には、原因となる「制度」を変えること。そのためには市民一人ひとりの政治参加が必要です。仕方ないではなく、諦めない社会へ。私たちの社会を私たちの手でつくっていきましょう。



profile

たかはし・ゆうた

2000年生まれ。慶應大学在学中、学生団体「KNOW NUKES TOKYO」創設。核兵器禁止条約締約国会議、NPT再検討会議でスピーチ。職業は核廃絶ネゴシエーター。調査研究、講演で全国を巡る。「かたわら」の最新情報、ワークショップの依頼等は公式サイトで。

一般社団法人かたわら



katawara.org

*長崎大学核兵器廃絶研究センター (RECNA) 発表

犠牲の上に立つ平和は、平和と呼べますか？

平和学習講師

仲本和

「ジブングト」にするとは

私は、沖縄戦の継承や米軍基地問題についての講義やフィールドワークを行っています。活動を始めたころは、沖縄県外の学生には必ず「今日学んだことを、保護者や友人など、身近な人と共有して、もつと沖縄をジブングトにしてほしい」と伝えていました。

これには沖縄の戦争の記憶や実相、そこから地続きになる米軍基地の押し付け、米軍基地がもたらす被害など、沖縄の痛みを他人のことではなく自分のこととして考えてもらいたい、という狙いがありました。しかし程なくして、課題を突き付けられたのです。

2021年の衆議院選挙を控えたある日、私の講義を受けた関西の高校生が泣きながら連絡してきました。

その生徒は、沖縄の苦難の歴史と基地がもたらす現状を変えるために、選挙権のない自分の代わりに母親に投票を託そうとしました。

「沖縄に基地を押し付けない政党か候

補者に投票してほしい」

母親の反応はこうでした。

「そんなに基地のある生活が嫌なら、私だったら沖縄から出て行くな。仕事で忙しいから選挙なんか行かないよ」この話を聞いて、私は「本土と沖縄との隔たり」の大きさを痛感しました。これを機に、沖縄の痛みをジブングトにしてもらうのはなく、沖縄に犠牲を強いている側であることを自覚してもらうように伝えていきます。

軍力は重要 身近にはノー

今春、東京の二つの大学で講義をした際、日米安保体制に関する意識調査をしました。大多数の学生が、次のように感じていることが分かりました。

「平和を維持するためには、日米同盟を含む軍力が重要である」

「政府が進める国防政策に、市民や個人の意見が反映されるべきだ」

さらに丁寧掘り下げて尋ねると、

「沖縄への基地集中は不平等であり、国防政策に対して沖縄県民の意向が反映されていない」

と、理解していました。その一方で、「自分が住む街に米軍基地やミサイル基地など軍事施設を持ちたくない」を重ねてこんな質問をしました。

日米安全政策の下で、自分は沖縄人にはない「特権性」を持っていると思えますか？

「そう思う」 9%

「そう思わない」 約30%

「どちらとも言えない」 約43%

「特権性」を 自覚することから

現在、日本の米軍専用施設面積の約70%が沖縄に集中していますが、

1950年代中頃までは、わずか10%程度でした。90%は本土に展開され、基地反対運動が全国各地で行われました。これにより、本土の基地は50年代や72年の復帰の前後に整理縮小され、一部は沖縄に移転。沖縄の基地負担が増えたという側面があります。

本土の人が要らないものは、沖縄の人にも要らないのです。沖縄の犠牲の上に立っている平和は、平和と呼べるのでしょうか？

見ないふり、知らないふり、無関心でいられる、その「特権性」に無自覚であることが、沖縄に基地を押し付け続けているのではないのでしょうか。この無自覚という「暴力性」を一人ひとりが意識し、目を向け続けることが重要だと思います。



profile

なかもと・わたる

1999年、沖縄県生まれ、沖縄国際大学卒業。2018年から、平和学習講師として、中高生・大学生に向けて沖縄戦や在日米軍基地についての講義、ワークショップ、フィールドワークを行ないながら、県内大学生の語り手・ファシリテーターとして養成を行う。また、最近は、平和啓発事業や米軍基地問題発信事業に従事する。

仲本和さん ▶



@watarunakamot

2022年12月、岸田政権が防衛費を5年間で43兆円に増額することを閣議決定したニュースは、日本だけでなく海外でも波紋を呼びました。それに危機感を覚えた女性たちが声を掛け合い、「平和を求め軍拡を許さない女たちの会」が立ち上がりました。オンライン署名はわずか2週間で7万5000筆が集まり、翌年2月に東京、熊本、大阪で発足会見が開かれ、その

立ち上がった女性たち



なぜ武力で平和は守れないのか

非暴力で勝ち取る非戦

熊本YWCA会員 海北由希子

後も、北海道、茨城、大分、宮崎と次々に会が立ち上がりました。私はこの会の熊本のメンバーとして、仲間と共に声をあげ続けています。岸田首相は「軍拡は抑止力」と言いますが、私たちはむしろ平和を脅かすと考えます。その理由は主に次の通りです。

武力が平和を脅かす理由

第一に、他国との対立や緊張を増大させます。軍事力の急激な増強は他国

から見ると自国への脅威と見なされ、敵対心や争いの激化を招くこととなります。

第二に、資源と予算の問題です。軍事装備の調達には膨大な資金が必要で、毎年の維持費や戦闘機のパイロット養成などの費用も莫大です。環境への負荷も大きく、全国の基地周辺で高濃度の有機フッ素化合物（PFAS）が検出され、周辺住民の健康被害が懸念されています。また、教育や福祉・医療分野の財源を削減することになります。

第三に、急激な軍事力増強は自衛隊内部にも混乱を生むこととなります。誤った判断や行動を引き起こし、武力衝突の危険性を高めると言えます。

第四に、国際安全保障の問題です。複数の国が軍拡を進めることで、国際的な安全保障状況がさらに悪化する可能性があります。軍事バランスの変化によって不安定な状況が生まれ、平和を脅かす要因となります。経済にも影響が及びます。日本に暮らす私たちの安全は他国との関係性の中で保たれているのです。

憲法という最大の武器で

私たちの最終目的は「非戦」です。「非戦」とは闘わない状態です。しかし何もしないことではありません。

暴力以外のあらゆる方法を用いて、計画的に実践するものです。その第一歩が憲法を知ることです。憲法第9条は「戦争の放棄」「戦力の不保持」「交戦権の否認」をうたい、海外でも高い評価を得ています。しかし、今、この9条が権力者によって変えられようとしています。憲法は、私たち国民が持つ最大の武器であり、決して手放してはいけないもの。憲法を変えるには、私たち国民が十分に議論し、国民の意見で決めなければなりません。今の日本は基本的な人権である「生存権」さえ政府によって脅かされています。

反対の声をあげるには勇気が要ります。同じ思いを持つ人がいないか周りを見渡してみましよう。勉強会や反対デモに参加してみましよう。デモは、非暴力で平和的でなければなりません。また18歳以上のの人たちは選挙権を最大限に活用しましよう。投票に行くときにはぜひ、投票したくてもできない人たちの存在も思い出してください。

「非戦」とは、仕返しをせず、過ちもゆるすことです。暴力そのものを否定しなければ本当の平和はつくれません。「非暴力」で勝ち取った民主主義を持続可能にするには、「非戦」を最終目標に置き、国民による不断の努力で守ることが大切なのです。

『イスラエル軍元兵士が語る非戦論』に学ぶ

「武力による平和」の先にあるもの

ダニー・ネフセタイさんは、1957年にイスラエルに生まれた。イスラエルでは誰もが憧れる空軍パイロットになるのが夢で、高校卒業後、イスラエル空軍で兵役を務めた。だが今は日本で、木工家具職人の仕事の傍ら、非戦による平和を訴える活動をしている。何が彼を変えたのか、非暴力で平和をつくるための手がかりを近著から探った。

武力によって成り立つイスラエル

全編を通して伝わるのは、「武力による平和」はまやかして、それは教育や国家体制によって作られる、という著者の経験に裏打ちされた考えだ。

イスラエルは1948年の建国以来国を守るのに武力に頼った。2000年の間、差別や偏見に苦しんだ末、ナチスドイツによるホロコーストを経験したユダヤ人にとって、イスラエル建国は迫害からの解放を意味したかもしれない。だが、それは多数のパレスチナ人の家や土地を奪い、追いやる形で行われた。

その「ナクバ（大災厄）」は、イスラエルでは教えることも記念することも禁じられ、パレスチナ人の家の残骸は片付けられて森や国立公園にされ、地名はことごとくアラブ名からイスラエル名に変えられた。歴史の授業ではイスラエル側の領土獲得や死者数は教えるが、パレスチナ側の被害は漠然と教えるのみ。学校で使う地図には、パレスチナ自治区ヨ



パレスチナ自治区ヨルダン川西岸地区のヘブロン市内を武装して歩くイスラエル兵（2018年）

ルダン川西岸地区の記載がない。そこに派遣された若い兵士は、イスラエルの地なのになぜ多くのパレスチナ人が住んでいるのかと驚くという。西岸地区へのユダヤ人入植者が後を絶たない訳が、透かし見える気がした。イスラエル建国は、パレスチナ人差別の上に成立してきたのだ。

なぜ同じことをパレスチナ人にするのか

未曾有のホロコーストの集合的記憶があるのに、イスラエルはなぜ同様のことをパレスチナ人にするのか？ 著者が指摘するのは、上記の差別意識に加え、イスラエルの人々は自分たちの「世界一悲惨な歴史」を強調し「自分たちへの虐殺は二度と許さない」という段階に留まり、普遍的な人権意識には至っていないということだ。「戦争とテロで亡くなった人たちの追悼記念日」でも、自国の犠牲者を悼みつつ「今度は自分たちが戦って国を守る番だ」という意識こそ強められるが、パレスチナ人への想像力は刺激されない。

教育によって洗脳されていた

ダニーさん自身、長年「国を守る武力は正しい」と考えていた。だが、

2008年のガザへの軍事攻撃で死亡したパレスチナ人1398人の中に345人もの子どもが含まれていたことに衝撃を受け、イスラエル在住の友人・知人に「あなたはどう思う？」と問いかける。しかし左派的な友人からさえ、「子どもを殺すのは良くないが、今回は仕方なかった」という返答を受けて気づくのだ。みんな洗脳されている、自分もそうだったんだ！ と。受けた教育のあれもこれもが、イスラエルの戦争を正当化することに貢献していたと気づいたのだった。だからダニーさんは実感を含めてこう語りかける。

「武力による平和」の行きつく先は？

子どもたちの未来のために一緒に心を使いましょー！

編集部会 西文字

『イスラエル軍元兵士が語る非戦論』

ダニー・ネフセタイ 著

永尾俊彦 構成

集英社新書（2023年）

1000円十税





加盟YWCA中央委員会報告

変えられないものと変えるべきもの

5月25日、第33総会期最後となる加盟YWCA中央委員会が福岡市の西南学院中学校・高等学校を会場に...

藤谷佐斗子会長は開会にあたってラインホールド・ニーバーの「平静の祈り」を唱えた。昨年11月末に開催された世界YWCA総会では世界YWCAの2035ビジョンの達成に向けた優先課題と主要な取り組みが承認され、中でもICT（情報通信技術）時代に即した意思決定の在り方と、より広範なステークホルダーの参加を実現する「運動の近代化」が最重要課題であることが紹介された。



午前中の議事では東日本大震災被災者支援活動の拠点「カー口ふくしま」の閉室や、中高YWCA委員会が今年度から理事会の下に置かれたこと等が報告された。

午後の部では、韓国での日韓ユース・カンファレンスとニューヨークにおけるCSW（国連女性の地位委員会）に参加したユースからオンラインで話を聞き、地域YWCAを主体とした活動（LA）を実施中の6つのプログラムの中間報告に耳を傾けた。

日本YWCA書記 吉田亜希

カー口ふくしま閉室のお知らせ

日本YWCAの東日本大震災被災者支援の福島での活動拠点「カー口ふくしま」は、2024年7月31日をもって閉室しました。

公益財団法人京都YWCA

0422市民クリスマス実行委員会

白竹ふたば 高野信子

(バレスチナYWCA支援)

公益財団法人京都YWCA

公益財団法人福岡YWCA

(オリブの木キャンペーン募金)

磯村美保子 東根順子

(国内外の災害被災者支援)

災害時支援募金

嘉屋陽子 牧甫

株式会社コロンビアスポーツウェア

橋本直子 東根順子

ピースメーカーズ募金

石渡能子 磯村美保子

賛助費

ご協力ありがとうございます

お詫びと訂正

2024年6月号 (No.780) 6面に誤りがありました。ここにお詫びして訂正いたします。

(誤) 日本軍「慰安婦」問題解決のための全国行動 (水曜アモ)

(正) 日本軍性奴隷制問題解決のための定期水曜アモ

敬称略 (2024年4月16日~6月15日)

カー口ふくしま募金は終了いたします

吉田暁美 吉田夏子

久宗百合子 清塚典子

藤原玲子 松村真理子

丸山泉 実生律子

山本千鶴 横川宏美

谷合公江 俵恭子

津戸真弓 鶴崎祥子

中島睦 中村紀子

西田悦子 芳賀美江

野崎斐子 西本玲子

花盛静子 半澤敦子

久宗百合子 清塚典子

藤原玲子 松村真理子

丸山泉 実生律子

山本千鶴 横川宏美